是は此方より被仰遣にては無之、あなたの商人献上仕候。其代りに新牌を願申候。新牌は、日本へ往來の印にて候。是を拜領候へば、自由に日本へ商賣成候故申候。舟に其まゝ置候て、江戸へ伺候はゞ御用に無之とて、御返し被成儀も可有之處に、長崎奉行不心得にて、長崎へ引上げ候て伺候故、御返し被成候儀も難成候由、其に付其節奉行御叱に逢ひ申候。以上。



# 可觀小說卷廿四

一、松雲公の詩

松雲公御壯年の時、題二粟崎亭子二首。

百尺凌レ雲碧玉樓。蒼波涵レ影卽風流。帝機屢濺江天雨。織出階前錦樹秋。

騷客題レ詩一草堂。夕蟬和レ雨送二斜陽一。人間快樂知二何事一。吟止寥々興正長。

同題二芳野山屛風一

寫出風流芳野山。葩豐疊レ雪緣梢閑。四時長是有二花在一。唯恨清香失二畫間一

一、陽廣公の歌

陽廣公はじめて國祖御墓へ詣でたまひて

色に香に何か忘れむ梅の花もとの根ざしの深きこゝろを

夜氣平旦のこゝろを

起出でてものにまじらぬ朝の間の心やもとの心なるらん

一、牧野養潛の詩

元祿十二年己卯我先師牧野先生、金澤より舊君彥根侯の招に因て、江州彥根へ歸復し、其年の冬侯の前にて講談など有て、其上にて一封の諫書を奉られ、十二月廿九日一絕句を賦して予に示さる。予其草稿を請ひしかども不レ被レ許、火中の旨承傳へぬ。其詩に曰。

志學積レ功五十年。此心常欲レ致二君前一。盡忠報國今朝悅。成敗未レ知明日天。

翌年元旦之作如レ左、時年七十二歲。

今朝七十二年春。日暖霞晴心亦新。自レ古難レ全二忠孝一事。唯仁斯已報二先人一。

一、儒釋の心法につき室鳩巢來狀

（四六月九日先生御回翰御別幅致拜見候。學而篇覺書仕候事、新八郎物語にて御聞被成候由、病中工夫仕候て、十一章迄大方文字にも改置申候所、此間手痛つよく筆を取事難仕、其上少づゝ大全等考申儀も有之候。書物を取扱候事、手指痛候て難仕候故先づ捨置申候。學而篇は今少々候間、其内すきと濟候はゞ、新八郎迄可遣候間、御覽可被成候。雨森三哲敬字見立も御聞入、尤に被思召旨致承知候。此度私註にも正面の說を取申候。